

第一部

> 午前9:30-11:00

日本統治下の朝鮮の映画『授業料』上映 (80分)

司会 土屋礼子(早稲田大学政治経済学術院)

> 午前11:00-午後12:30

下川正晴氏(元毎日新聞ソウル支局長)による
解説と講演および映画に関するディスカッション

討論者 丁智恵(東京工芸大学芸術学部映像学科)

第一部は植民地朝鮮で作成された映画をその紹介に深く関わった下川氏をお招きした上で共に鑑賞します。銀盤の上に残された映像が、いまや異なる国民となった日韓相互の国民的記憶のズレを埋める可能性や条件を中心に講演と討論が行われると期待しています。

第二部

> 午後13:30~15:00

右田千代氏(NHKエグゼクティブ・ディレクター)
「被害」と「加害」の記憶~広島・被爆者の場合~

司会 浅野豊美(早稲田大学政治経済学術院)

来年、原爆投下から75年を迎える広島。被爆者は戦後、被爆の実態と核兵器廃絶を訴える中、「加害」の記憶にも向き合ってきた。アメリカの占領下、そして差別や偏見が続いた「空白の10年」を経て、1950年代からは市民運動とも連帯し、被爆の実態を組織的に訴え始めた被爆者。その中で「加害」の記憶にも向き合おうと格闘した人もいた。被爆50年の年には、政治対立などを超えて被爆者七団体が結束、被爆者援護法の成立につながった。右田氏が被爆者の歩みを番組制作などを通じて伝えてきた立場から「被害と加害」の記憶を見つめる。

ラウンドテーブル

> 午後15:00-17:00

「国民的記憶と和解に向けたメディアの可能性」

総合司会 浅野豊美(早大政治経済学術院)

パネリスト 土屋礼子(早大政治経済学術院)、

丁智恵(東京工芸大学助教)

右田千代(NHKエグゼクティブ・ディレクター)、

下川正晴(元毎日新聞ソウル支局長)

午前と午後の講演者を交えて、「国民的記憶と和解に向けたメディアの可能性」を主題に会場からのレスポンスを交えたラウンドテーブル。

第二次大戦後における国民的記憶はいかに形成されたのか。そして国民的和解をめぐるメディアの役割は、どのような可能性と社会的制約の下に置かれているのか。メディアが国民的記憶の形成にどのように関わってきたのかという問題を中心として、過去における映画や音声という客観的な映像資料の読み解き方の手法・可能性・制約、そして現代のメディアが取り上げてきた市民運動と歴史的記憶が現代においてもいかなる社会的文脈に置かれ国民的感情や価値を支えていたのかを議論します。

10/27^日
シンポジウム

国民的記憶と和解に向けた
メディアの可能性

時間 午前9:30~午後17:00
会場 早稲田大学早稲田キャンパス3号館909教室

参加費
無料

主催

新学術領域研究「和解学の創成」
文化記憶班(研究課題17H06339)

申し込み不要
〔受付の際、名簿にお名前と所属の記載をお願いします。〕

「国民的記憶と和解に向けたメディアの可能性」と題したシンポジウム。午前は植民地時代の映画が中心、午後は現代のNHKドキュメンタリーが中心の二部構成。